婦人と新社會

山田わか主筆

五月號

機械と人間

日米問題の立體的批判

慢心したる米國人

米國人と日本人の實力

寄生蟲に苦しむ日本

人口と富源

空想から醒めよ

自由戀愛と結婚の形式

大正十三年四月廿三日印刷納本

毎月一回一日發行　第五十號　大正十三年五月一日發行

東京　婦人と新社會發行所

機械と人間

社會は進歩する、今迄盛んであつた資本主義と社會主義の爭ひを既でに突破して勞働主義と資本主義とを兩輪とする產業主義と人間との調和の問題となつてゐる。本誌第二十一號所載「機械と人生」に於て云つたように、機械が人間を使役することの代りに、機械が人間に奉仕するやうにしなければならないのだ。左傾だの右傾だのと云つて道端を歩く時代ではなく、まん中を歩まねばならぬ時代と今はなつてゐる。

露國のソビエットは國民を使役する一つの大きな機械に過ぎない。しかも其の運轉が不可能になつた事は新經濟主義の實行によつても明らかである。

機械のために國民が働くのでなく、國民のために機械を働かせなければならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日米問題の立體的批判

慢心した米人　本誌第四十五號に於て私は米國の我が國に對する態度に付て、つまり、我が帝都の震災に米國が現した同情、及び、在米日本人に對する苛酷な取扱ひに關して、『私共は米國に對して感謝していゝのか、恨んでいゝのか不省自分の態度を決するに迷ふて居る次第であります。』と云つて置きました。

けれども、實を云ふと大凡その見當は付いて居たのですが其れを公言することを憚つて居たのです。米國人の殘忍性を暴露するのはどうかと云ふ遠慮があつたのです。けれども、今回の排日移民法案を殆ど滿場一致で上下兩院を通過させて快哉を叫んで居る彼等の態度は私の其の遠慮を拂ひ退けてしまいました。。我が帝都の震災に對してどんなに澤山な見舞品を米國が送つても私は苦々しい心持ちこそすれ決して快く思つては居なかつたのです。なぜなら、其れは丁度金持ちのドラ子息が金ビラを切つて自己が優秀な人間であるかのような顔をするのと同じように見へたり、或ひは又

財力があるに任せて自己よりは劣等と思へる國民を財力で手なづけ、其のまゝ服從して行けばよしさもなければ ヒツパタイても服從させると云ふのが今日迄の米國人の常用手段であつたことを私は知つて居るからです。

御參考のために、ハワイ及び キューバがどうして米國の屬國になつたかと云ふことを極く簡單に御話して見ます。ハワイは 一八九三年に米國の屬國になつたのですが、それより以前に米國人は莫大なる資本を ハワイへ投じました。そして、其の資本が可なり行き渡つた時分に、つまり經濟的に政治的に可なりな勢力が出來た時に、ハワイに革命が起りました。けれども、それは ハワイの米人が起したのでした。米國の軍艦から 米國水兵を上陸させて直ぐに王宮を乘取つて、そして主もなる官衙に米國の旗を立てゝしまいました。

で、此の事實が米國政府に知れた時に米政府は調査員をハワイへ送りました。（それは其の以前に結ばれてあつた條約の關係からでした。）そして、米國政府は始めて米國の軍艦が行つて居たし、又米國水兵が上陸して行かなかつたなら 到底其の革命は出來なかつたことを知つたと云ふのです。そして、米政府はハワイの合併を批准しないのみならず、もう 一度ハワイの女王リリウカラュを擁立

して復辟しようとしました。けれども、革命後直ぐにハワイ共和國を設定して大統領となつて居た米國人ドールが頑張つて米國政府の要求を一切拒否してしまつたのですから、其れが細工であり、無茶であつたと云ふことは言語に絶してゐます。

それより前、リリウカラニ女王の兄、則ち、ハワイのカラカウ王は米國に招待され、桑港迄來るや否や病を得て死去(一八九一年)しましたが其れが毒殺であつたろうとのもつぱらの評判でありました。

後に、リリウカラニ女王は時の米大統領クリーブランド氏にハワイ王國の復活を懇請に行きました。共和黨の大統領ハリソン氏のために凡ての芝居が仕組まれてとう〳〵ハワイ王國は倒されたが丁度其の後に大統領の改選があつて、今度はクリーブランド氏が選まれたので、リリウカラニ女王はクリーブランド氏の正義に訴へてハワイ王國を復活させて貰はうとしたのでした。

勿論、女王の希望は容れられなかつたのですが、米國人がどう云ふ風に此の遠來の女王を遇したかと云ふと、女王が桑港のパリスホテルに入るや否や、金儲けと云ふことの外は何にも考へて居ない米國の興行師は直ぐに女王を訪ねて、莫大な金を提供するから舞臺に出て呉れと頼みました。「何

にも云はず、何にもしなくてよい。唯、舞臺に出て坐つて居ればよいから』と云ひました。たとへ、小さくとも一國の浮沈に關し憂慮の餘まり渡米して來た國賓に向つて『金をやるから見世物になれ』と云ふことは何たる非常識、何たる無禮、何たる殘忍でありませう。

米國は又スペインと戰爭して、スペインに屬してゐたキューバ、ポルトリコ、フイリピンを奪ひ取つてしまつたのですが、此の時には米國人がキューバ人を煽動してスペイン政府に反抗させたのです。勿論其の時には米國の資本がキューバ内には充分行き渡つて居たのです。キューバは砂糖の産地であつて世界中の砂糖を皆あつめてもキューバだけは産出出來ないと云ふ程キューバは大きな金箱であるのです。で、キューバ内が混亂に陷つた時に米國は米人の生命財産保護のために軍艦をキューバの首府ハバナ港に送つて起きました。すると、其の軍艦のうちのメーン號が爆沈されました。どうして其れが爆沈されたかは明らかでなかつたのですが、併し米國側ではスペイン人が爆沈したと云つて、そして宣戰を布告しました。

スペイン政府は何等の軍備が無かつたが、併し、賣られた戰爭を買はないのは國家の體面にかゝはるとして其の戰爭に應じました。けれども、何等軍備のない處を相當な軍力を以て攻めるのです

から、丁度、軍艦で塩を蜂つようなものであつたのです。まるで戰爭にはならなかつたと云ふことです。で、可笑しいことには、戰爭に勝つてそしてキューバ、ポルトリコ及びフイリピンを手に入れるに當つて米國政府はスペイン政府に金二千萬弗を拂ひました。最初米國が戰爭を仕向ける時に標榜して居たように共れが正義の戰爭であつたならば、何と思つて勝つた方が負けた方に金を拂つたのでせう。此處に、私共が考へさせられる或るものが潜んで居ると思ひます。

米國人と日本人の實力　上杉愼吉氏が四月十九日の國民新聞に書いて居られたように、米國立法府が如何なる理由を附そうとも排日問題の動機が、日本人は嫌ひだと云ふ感情に基くものであることは間違ひのない處です。そして、米國人が日本人を嫌ふようになつた理由はいろ〳〵あつて共れに付ては本誌に二三回書いたことがありますが、併し、如何なる理由があらうとも今回の排日移民法案を通過させて、劣等國の酪印を我が日本國の上にグサと押したことは我が國民の耐へ忍び得ぬことであります。

と云つて、彼等の傲慢無禮なる人種的偏見を打ち破るために、又は、彼等の僞正義人道の迷夢を醒すために戰爭の手段に出ようとすることは決して策の得たものではない。彼等の迷夢を醒すには

先づ、私共が迷夢から醒めて居なければならない。あらゆる迷夢をかなぐり捨てゝ健實な人生觀の上に健實な國家を築き上げて置かなければならない。

『世界の勞働者よ團結せよ』と云ふ言葉は一種の夢に過ぎない。なぜなら、米國に於けるキヤナダに於ける濠洲に於ける排日は白人勞働者が日本勞働者を排斥してゐるのです。勞働者同志は團結する處ではなく排斥し合つてゐて、其處に政治上の小刀細工がからまつて、そして、厄介な國際問題を惹起して居るのではないですか。

國際主義も矢張り一種の夢です。事實は各人が見らるゝ通りです。ですから、私共はまだ〳〵國民主義で行くより外に道はない。そして、國民主義で行くとすると國民一人々々を比較して見る必要があります。其處で、財力豊かな中流以上は別として中以下の少青年の實力を比較して見ませう。米國の小學校は八年制です。そして、小學校を出さへすれば、社會のどの方面へ打つて出て行つても先づ一人前の仕事が出來るようになつてゐます。

ですから、十五歲で小學校を卒業するや否やもう親の脛かぢりではありません。直ぐに職業に附いて、そして、自活するばかりでなく、自分の家を持つ時の用意に貯蓄を始めます。これに反して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が國では小學卒業處ではなく、中學を卒業しても、まだ、實際上に役立つ人間とは成り得てゐません。又、本人達が役立つ人間にならうとする意志がありません。例外はあつても、先づ、大體に於て我が國では教育が高くなれば高くなる程夜店の商人のようにゆはく附きの安思想を仕入れて駄辯を弄して馬鹿を釣り、寄生虫の生活に甘んずるものが少なくありません。

非常に高い學費をかけて、やうやく、學校を卒業させても、役に立つ人間と成り得て居ないのみならず、眞面目な仕事に從事することを厭つて、全く不生產的な、つまり、寄生虫的な生活を選むようになつた時には、實に、親の身の苦しさは言語に絕してゐます。そして、これが國力を非常に弱くしてゐます。米國人は中學大學に行く者が少なく、ごく、僅かの例外を除けば中學大學に行く者は充分に經濟上餘裕のある人の子弟です。身代を危ふして迄子弟を學校へ送ると云ふことの必要を見てゐません。前にも云つた通り、普通には先づ十五歲になれば自活の道を皆求めてゐます。

これに反して、我が國では親の財產を危ふして學校生活をする者が可なりある。しかも、學校を出てから生產的の人間にならないならは、米國と日本との國力の差は非常なものです。日本民族の本幹は瘦せて行くばかりです。そして、他國の侮りを買はねばならない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄生蟲に苦しむ日本

オリーブ●シュライネルは母性論者のエレンケーと、非母性論者のギルマンとの間を行く婦人論者で、彼女は非常に強い母性論者であると同時に經濟界に於ける仕事を婦人も男子と同等にすべしと云ふ、經濟的に働けば婦人は經濟的に獨立になる、そして、寄生虫の狀態から解放される。今日の婦人の劣等な位置は婦人が寄生虫であるからだ、つまり、生產的な仕事をしないからだ。其の結果金錢目あての結婚となり、從つて、婦人の標準を低くし、引ひては人種の標準を低くすると云ふのであるが、つまり、婦人の寄生虫的生活と云ふことを力說してゐるのであるが、併し、今日の我が國の社會狀態を精細に眺めて見るならば、丁度、植物の莖にたかつた油虫のように寄生虫的生活を送つてゐる者があらゆる方面に如何に多いかを知つて私共は驚かされます山田嘉吉氏著『現代社會學』のうちに次の一節があります。

「法律家と云ふ一種の職業がある。これは文明社會に發達した法律の組織である。そして、其の目的は生命財產の保護である。併し、これは必要以上に餘まり多過ぎる人を使用してゐる。恐らく凡ての法律上の仕事は今日の法律家の四分の一で充分であらう。故に、其の四分の三は寄生虫である。そして、、此の寄生虫が社會に生存して居るのは政治と稱する商賣を通してゞある。大抵の政

治家は法律家である。そして これは法律家としての辯論を行してゐた結果である。普通一般の人は辯論をする機會を持たないために、社會上の問題に對して 正當なる判斷力を持つて居ても、公衆の心を引き付ける 機會がないから、從つて彼等が國會に送られることはない。であるから、立法部はいつも法律を造る知識を有する法律家から成り立つてゐて、そして、彼等が 自分等に好都合な法律を造るようになる。一言で云へば、これが社會に於ける 餘計な 法律事務所の存在を説明してゐるのである。そして、これは、經濟上の意味に於ける 何物をも作らぬのみならず、却つて、莫大なる財力を無駄にし、其の上に實際に於ては却つて生命財産の保護を危うするものである。」と

私が、今、此處で云ふ寄生虫と云ふのはさう云ふ種類の寄生虫であります。そして、それは社會のあらゆる方面に生存して居ります。官吏のうちにも、政治界にも、教育界にも、産業界にも 其の寄生虫が澤山居ます。必要でもない 人間に高い給料を拂つて或る位置を與へて置いたり、必要でも無いものを産出して 國民の精力と財力を無駄にしたり、又、思想界、新聞雜誌界にも其の寄生虫はウヨ〳〵してゐます。

何の役にも立たない 新聞や雜誌を造つて、何の役にも立たない、否、有害な説を振り廻して青年

男女を迷はせたり、混雜を惹起したりしてゐます。

米國から侮辱されて『殘念だ』と云ふ氣骨があるならば、我が國民は今覺醒しなければならない、自分を、自國をジツと見詰めて、しかる後に發奮しなければならない。

人口と富源　何處の國にも國民の財寶と云ふものがあります。獨逸の學問、佛蘭西の藝術、英國の著實性、米國の天然の富源と云ふように。そして、我が日本には何があるか？　私共は其れを發見しなければならない、發見して其れを利用しなければ我が國は決して强くなることは出來ないなぜなら、自國の富源を發見して其れを利用しつゝ進んで行くのでなかつたならば、それは丁度水の流れに逆行するようなもので、決して、樂にもならなければ强くもなれる筈がありません。

で、我が國の財寶とは何であるか？　それは豐富な人口であると私は信じて居ます。我が國の人口過剩と云ふことは常に聞かされてゐます。そして、厄介な移民問題は此の人口過剩の結果だと云ふようにも聞かされてゐます。

けれども、私は其れを信じない。如何に我が國が小さくとも、そして、出產率が如何に多くとも生れるだけの人間が居る處がない程我が國は狹くはない。

分り易いようにこれを一軒の家にたとへて見ませう。老幼を除く外の寄生虫的家族員は一人でも多過ぎます。けれども、有益な仕事をする家族員は何人あつても決して多過ぎません。家をだん〲ふとらせこそすれ、決して家を疲弊させない。國民としても有益な仕事をする人間はどんなに多くても決して多すぎない。唯寄生虫的國民はどんなに少數でも多過ぎます。人口が多すぎて困ると云ふ議論が虛であると云ふことは、我が國の農業地がだん〲疲弊しつゝあると云ふ事實によつても明らかです。つまり、充分に耕やす手が不足してゐるために農業地が疲弊しつゝあるではありませんか。農業が割りに合はないから青年が農業地を捨てると云ふのは事實ですが、それは、何とも仕様がないことではありません。

外國へ行つて、嫌やがられて、厄介な國際問題を起したり、國家の體面を蹂躙されたりするよりも、國内の農業地を充分に耕やしたり、工業を盛んにしたりするがよい。それが割りに合ふような政策を立てるがよい。

過剩な人口に割り當てるだけの仕事がないと云ふのも虛議論です。仕事と云ふものは坐つて待つて居て來るものではなく、進んで行つて造るものであり、そして、進んで行つて造る以上は殆んど

無限に造り出されるものであります。且ツ、又、生活狀態を折角改良しても人口過剩が其れを破壞すると云ふ人がありますが、それも虛であると云ふことが最近證明されました。事實は文明の進歩のために出產率は減りつゝあつて劣等な人種から補充しなければならない狀態であると云はれてゐます。

空想から醒めよ　ついでに一言申ますが、米國の今日の偉大を成したものは天惠と支那人及び黑人の勞力であります。天惠が天惠たることを得たのは以前は黑人の農業產業に於ける奴隸勞働と支那人の勞力にかかる大陸橫斷の鐵道建設であります。米國の勞働者が今日あるのは此の天惠と黑人と支那勞働者のおかげです。そして、其の支那人は排斥され、黑人は殆んど市民權を事實に於ては抗まれてゐると云ふ狀態です。

そして、今、米國の農業に多くの貢獻をした日本人が徹底的に排斥されたのです。

私共日本人は米國の天惠を分け前して貰はねばならぬと云ふ理由は斷じてない。豐富な人口を利用して有益な仕事を爲し、極力寄生虫を驅逐して健實な有力な國家とならなければならない。

暴力に對するに暴力を以てせず、うちに充分なる實力を蓄へるならば、いつかは必ず傲慢無禮な

る米國人を見返へし得ることを 私は信じて疑はないものであります。
不健全思想に毒されて 不生産的なグータラな生活をして居た者も我が日本人である以上此の度の米國の侮辱のためには憤起して 一日本國民として有益な生活に入るであらうことをも併せて信じたいと思ひきす。(十三年四月二十日)

自由戀愛と結婚の形式

一般に流行してゐる自由戀愛及び自由結婚に對する私共の不服は人間性の弱點を弱點とせず、それを肯定する、否、崇拜してゐる處にあります。自由戀愛及び自由結婚を主張する人々は現在の人間性を見得ないのに原因する一大空想に囚はれて居るのです。彼等は人間と云ふものは、皆、社會道德の必要には服從する、つまり、社會の利益を中心としようとする高尚な動機によつてのみ動いて居るかのように思ひ誤まつてゐるのです

ですから、自由戀愛及び自由結婚が盛んに實行されて、恐るべき果實が、どうすることも出來ない程澤山後へ殘された時には、それ等の抽象論者も彼等が人間性を買ひかぶつて居たことに氣付くでせうが、併し、其の時、はもう遲い。

其處で、絶對とは云はないが先づ可なり嚴格な結婚の形式は個人並びに人類の福利のために矢張り必要です。なぜなら嚴格な形式は確實なそして永久的な自己を代表するものです。其の形式は間違つた判斷をして他人に重大な迷惑をかけ、同時に自分を害するかも知れない(十四頁へ)

（十三頁より）欲望にある人々の行爲を強く牽制するものです。

自由戀愛主義者は戀愛衝動の滿足を得ることに急であつて、戀愛以外の衝動や力や要求や責任を、つまり、彼の全生活を見ることが出來ないようになる。自己の責任の全部を見ることが出來なくなつた以上、彼の人格は切れ〲になる。最早彼は全人格者では無くなります。

人間の内部に潜んでゐる本能の力を意志の弱い普通の人はどうすることも出來ない。さう云ふ人は多くの人の面前で誓つた嚴格な結婚の形式によつて救はれ、自己の薄弱な部分を數へられ、そして、健實な常道を歩み得るようになるのです。正式な合理的な眞面目な結婚の形式が、無責任な有害な肉慾の誘惑に對する先づ最大なる保護となるのです。

男でも女でも自己を制限する修養を充分に積んで居つて、自己に對する義務、及び、社會に對する責任を果し得るような人格者になつて居れば、形式などは全く無用なものです。けれども、大部分の人間がまだ其處迄發達してゐない大多數の人間はまだ盲目な本能の力によつて動かされてゐる、道德の發達の程度が、まだ、今日のような狀態に於て自由戀愛及び自由結婚の主張は實際危險で、愛慾の衝動を制裁することを人が學ぶ迄は、つまり、自己並びに社會の善のためと云ふ見地から愛慾の衝動を支配し得るようになる迄は、自由戀愛の實行は精神生活を全く破壞してしまう。人間の生活は多方面のものであるのに、一つの衝動のために他の衝動を皆犧牲に供してしまうならば其の人の精神生活は亂れッィには人格の破產となるのは當然の歸結です。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

本誌代及郵稅は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと郵券代用は五厘切手にて一割增廣告は御照會次第御相談いたします

大正十三年四月廿三日印刷納本
大正十三年五月一日發行

編輯兼發行人　東京市四谷區南伊賀町四一　山田嘉吉
印刷人　東京市牛込區山吹町一八九　大杉直次郎
發行所　東京市四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社
振替東京五三六八八